

プラスッドの生産拠点となるふくいWOODバイオマスセンターの取組みが「2016年度 グッドデザイン賞」を受賞しました



概要

本取組みは、異業種が一緒になった間伐材の有効利用に関する試みである。森を整備する(1次産業)過程で出る間伐材から木質切削チップや木粉を製造し、さらに木粉樹脂ペレットを原料とした木質プラスチック建材プラスッドへと展開(2次産業)。木質切削チップは、温泉旅館のシャワー給湯用燃料に、プラスッドは公共施設等の外装建材として使用されている(3次産業)。

ビジネスモデル

1次産業 森を整備し、林業を守る。

坂井森林組合

間伐材の整備



定期的の間伐作業を行い、その間伐材と森林の残材を排出。間伐材は「建築用木材」と「ふくいWOODバイオマスセンター」で使用する木材」に仕分けします。

2次産業 間伐材を粉砕し、各種製品を製造。



3次産業 燃料、建材として販売。



グッドデザイン賞審査委員の評価コメント

間伐材の地産地消を通じて森林保護、省資源、地域活性化に貢献するため、複数の業種が協調して、人工建材への木粉活用、旅館のボイラーで切削チップを燃料として使用、学びの場として工場見学を実施するなど、立体的に6次産業モデルを構築。1次産業から3次産業まで、地域のものづくりと森づくり、どちらも生かすビジネスモデルとなっている。

グッドデザイン賞とは？

グッドデザイン賞は、1957年に通商産業省(現経済産業省)によって創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みで、国内外の多くの企業が参加しています。